

## タブレットを文具として

4月15日（木）の「立会の風 No. 3」で、タブレット（iPad）の今後の活用について話題にしましたが、今回はその後の様子についてお知らせします。

現在は、1年生への配布も終え、全児童の手元にタブレットがある状況です。児童の発達段階等を考慮し、学年によって、毎日持ち帰ったり週に1回の持ち帰りに留めたりしています。



授業内の活用については、まだ手探りではありますが、徐々にその場面が増えつつあるという実感をもっています。例えば、上の写真は、低学年がドリル的なソフトを開いて、試しに取り組んでいるところです。このように、中に入っているドリルソフトを使ったり、カメラ機能を使って、校内で見つけたものを記録・保存したり、前回ご紹介したロイロノートを活用したりと、その活用の用途は広がってきています。

特に、ロイロノートという学習支援ソフトは、比較的簡単に使えるので、下学年の児童の活用も期待できます。授業などの中で調べたことを簡単にプレゼンテーション資料にまとめることができるので、例えば、児童が発表する場面で活用しています。これまでは、模造紙などに大きく手書きして発表していたことを思えば、手間がかからなくなるだけでなく、その頻度も格段に増やすことができることから、児童の表現力等の向上が期待できます。また、授業で使う資料の配布が簡単になり、しかも「ここに注目！」といった教師の働きかけも格段にやりやすくなることから、授業の効率化が進むことも期待できます。また、今後、やり方・進め方は研究しなければなりません。宿題をロイロノートで提出するという使い方も増えていくと思われます。画面上にある「提出箱」というところにドラッグして持っていけば、提出も簡単です。教員にとっても提出の確認にとっても便利なものなのです。

このように、その活用にはいろいろと期待感のあるタブレットですが、考えていかなければならない課題もあります。連休前後で実施させていただいた個人面談では、①家庭内でのタブレットの活用の在り方（YouTubeなどの視聴等について）、②タブレットを持ち運ぶことによるランドセルの重さについて、などが話題になったと報告を受けています。

持ち帰った後の家庭での活用の在り方については、今後の課題です。そもそもこのタブレットは、「学習用文具」として活用してもらうことを想定して貸与されたものです。家庭学習の中でどのような活用がよいか、発達段階によってもいろいろあると思いますが、各学年を中心に検討し実践を進めていきたいと思えます。学校では、児童の活用の実態を把握しながら、ランドセルの中身を含め、授業や家庭学習等でのより良い活用の仕方を検討してまいります。今後も、ご心配のことやお気付きの点などがありましたら、どうぞ学校まで声をお寄せください。